

2019年9月26日

道関係各位

慶應義塾大学 SFC 研究所

Web 上の縦書きの国際標準がついに完成に近づく

慶應義塾大学 SFC 研究所が世界 4 拠点の 1 つとしてホストをしている W3C (World Wide Web Consortium)^{※1}は、福岡県福岡市で 2019 年 9 月 16 日から 1 週間にわたり開催された W3C TPAC (World Wide Web Consortium Technical Plenary Advisory Committee Meeting) 内の 1 つの会合である、CSS WG (Cascading Style Sheet Working Group) において、日本語の特徴である縦書きを正式な技術仕様書として完成し、標準提案として審議することを決定しました。

勧告案 (PR・Proposed Recommendation) に採択されたことで、近々勧告化 (W3C REC・Recommendation) されることが期待されます。

W3C で文字や画像のレイアウトを定めている CSS ワーキンググループが提案した縦書きモード (ライティングモード・CSS Writing-Modes) の技術標準が採用されると、世界中のブラウザやさらにはそれらが組み込まれている様々な製品において、これまで難しかった日本語の縦書き表示が可能になります。

※1 Web 技術の国際標準化組織

日本は過去 10 年以上、日本語の縦書き表示ができるように CSS の活動を支えてきました。CSS WG 当日は、CSS グループから「日本のみなさま、大変お待たせしました。」というメッセージが出され、拍手で迎えられました。

Web 上の縦書き仕様とは、Web 上で縦書きを含むさまざまな文字や行の向きを定義する仕様です。

世界的にみると、縦書きはほぼ日本固有の文化となっていますが、日本は 10 年以上にわたり、本仕様に対する情報提供やブラウザテストの提供などによって勧告化に向けたサポートを行ってきました。そして、今回日本で開催されている W3C TPAC において、勧告化への道筋が示されました。

これは、単に Web 世界標準の中に様々な文化、思考形態の多様性を内包したという文化的価値となる以上に、世界の Web 技術者や技術団体が標準化の中で、その多様性を必然であると感じたということに意味を持つものです。その実感の背景には、当然裏打ちされる技術仕様開発とその実装モデルが提示されたことが大きなきっかけになったことはいまでもありません。世界には様々な組版・表記文化が息づいており、その文化を標準化の中で置き去りにするのではなく、実装サポートによってその文化的価値を実証したことが勧告案採択の大きな要因であるといえます。Web 技術の発展において、単なる効率化・標準化だけでなく、多様性を内包するという方向性を持つことには大きな意義があります。

W3C (World Wide Web Consortium) について

W3C (ワールド・ワイド・Web・コンソーシアム) の使命は、世界中の人々にとって Web がオープンでアクセス可能で相互運用可能であることを保証するための技術標準とガイドラインを作成することによって、Web を最大限に活用することです。

W3C は、HTML5、CSS など広く知られた仕様を Open Web Platform の理念の元に開発しながら、セキュリティとプライバシーの確保にも取り組んでいます。これらはすべてオープンに開発され、無料で独自の W3C 特許ポリシーの下で提供されます。W3C は、オンラインビデオをキャプションと字幕でよりアクセシブルにする技術で 2016 年の技術・工学エミー賞を受賞し、テレビ上での視聴をすべての人に、なおかつアクセシブルとするための技術で 2019 年にも同賞を受賞しました。

「One Web」に対する W3C のビジョンの下、400 を超える会員組織と数十の業界部門を代表する何千人もの真摯な技術者が集まっています。W3C は、米国の MIT コンピュータ科学・人工知能研究所 (MIT CSAIL)、フランスに本部を置く 欧州情報数学研究会 (ERCIM)、日本の 慶應義塾大学、中国の 北京航空航天大学 が共同で運営しています。詳細については、下記 URL を参照して下さい。

W3C の技術総会は毎年、北米、欧州、中国、日本で順次開かれており、昨年はリヨン、一昨年はサンフランシスコ、2016 年はリスボン、2015 年には札幌で開催されました。

【W3C】 <https://www.w3.org/>

APL (Advanced Publishing Laboratory) について

インターネットとウェブを活用した日本の出版の存在と役割、海外市場への認知度を向上し、文化を世界から孤立させないことも含め、EPUB^{※2} 促進のための議論、開発、実証を伴ったウェブの標準化を目指しながらメンテナンスを行なうために SFC 研究所に設置されたラボラトリーです。今回の縦書き技術標準の推進には、APL 内の 1 つのワーキンググループである日本語表記 WG からの後押しもありました。APL は各種教育プログラムを遂行し、未来の出版そのものを支える人材を育成し、加えて世界でも存在感のある日本のエンタテインメント資産のさらなる育成も目指しています。

詳細については、以下 URL を参照して下さい。

【APL】 <https://www.kri.sfc.keio.ac.jp/ja/lab/aplab/>

※2 IDPF(米国の電子出版業界の標準化団体)が策定した世界標準のオープンフォーマットの電子書籍ファイル形式

※本プレスリリースは、新聞各社社会部等に配信しております。

【本件のお問合せ先】

W3C (World Wide Web Consortium)

URL: <https://www.w3.org/Consortium/contact-keio-ja.html>

E-mail: keio-contact@w3.org

APL (Advanced Publishing Lab)

URL: <https://www.aplab.jp/>

E-mail: aplab@awa.sfc.keio.ac.jp

【配信元】

慶應義塾大学 湘南藤沢事務室 学術研究支援担当

E-mail: kri-pr@sfc.keio.ac.jp

TEL: 0466-49-3436

FAX: 0466-49-3594